

理事長語録 4

3歳・7歳・10歳までが決め手



2018, 12

「3歳・7歳・10歳が決め手」横峯吉文

子ども達には、自分で考え、行動できる子になって欲しいと私は常々願っています。今まで「天才は、10歳までに作られる」と伝えてきましたが、違った方向で捉えてはいけません。それは、「考える力」をつぶすのも伸ばすのも大人の環境次第で変わっていくということを伝えたいのです。しかし、具体的に何をしてあげたらいいのか、ちゃんと伸ばしてあげられているのか、なかなかわかりにくく不安な気持ちも膨らんでしまいます。「考える力」は、一朝一夕には育てられません。子どもの成長の段階で楽しみながら見守っていればいつの間にか成長しているものです。「伸びる子」「伸びない子」の差はどこにあるのでしょうか。

大人達は寄ってたかって「注意したがる」、これも考えて欲しい。子どもに3回注意しても言う事を聞かない。子どもは「3秒で忘れる」という生き物なのだとか知っていると言いながらも、凄まじい強烈な「口撃」をしていませんか？押し付けたりしませんか？子どもにとって小言は、耳が痛い、「耳にタコ」なのです。つつい注意したがる、いちいち教えたがる、そうではなくて「他の方法」や、やり方があるということ、ここに目を向けて欲しいのです。最初で話した「耳にタコ」。目の前の成果だけにこだわると「こうしなさい」「それはダメ。あれはダメ。」「早くしなさい」などと指示ばかり小言ばかり先回りばかりをつい言ってしまう。これがいわゆる「子どもをつぶしている」のです。自ら考えることによる思考本能の本質を止めてはいけません。また、新しい発想を思いついたり繰り返し考えていくことで「どうしたらもっと良くなる」「こうしたら良くなる」と学んでいくのです。子どもは皆天才です。つぶすような発言を今すぐ辞めるとどうなるかって、「勝手に伸びる」のです。才能は、生まれながらにもって生まれてきているのです。大人がもっと子ども達を観察して10年先を見据えて見守って行けば、もっと成長していけるのです。

ヨコミネ式は、環境で子育てしていくことを最も重要と捉え、先生方に「環境作りについて」考えてもらっています。個人差はあってもそれを性格として捉えてはいけません。気の弱い子、やる気が無い子、引っ込み思案、気が強いなど性格や子どものせいにしていたらその子がそうなります。勉強が嫌いな子はいません。運動が嫌いな子もいません。人に優しくできない子もいません。子ども達は、純粋で素直だからどんどん吸収するのです。

子どもの脳は、3歳、7歳、10歳の三つの節目を経て、赤ちゃんの脳から「学習する脳」へと変わっていきます。

赤ちゃんの脳から3歳までに「脳の本質を育てる」7歳までに「考える力の素地をつくる」10歳までに「自分で考える力をつける」「できる子だけ何でもできる」のではなく、子どもを取り巻く大人達が環境を整えることで全ての子ども達がきちんと育っていくのです。